

ふるさとふちゅう

再発見

【第57回】府中が農村だったころ（17）～府中町内の川

町内にある川の流れや名前を知っていますか。昭和7（1932）年に刊行された『けいしやふちゅうしやうし芸州府中荏誌』には、ふちゅうおかわ府中大川・みそおかわ御衣尾川・やまのかわ山田川・えのきかわ榎川・やはたがわ八幡川の5つの川が記されています。府中大川は府中川、大川とも呼ばれ、呉娑々ごさそう宇山の西北の広島市東区馬木うまきが源です。馬木では温品川と呼ばれ、府中村に入って府中大川と呼ばれます。府中大橋の少し上流で榎川、八幡川と合流し、さらに猿猴川と合流し広島湾へ流れ出ます。御衣尾川は水分峽から流れ出た川で龍仙寺角で山田川と合流する間を言います。御衣尾川の洪水で中郷と呼ばれていた地区は土砂に埋まり砂原となります。山田川は茶臼山近辺の小川が集まり、山田地区を流れて龍仙寺角で御衣尾川と合流するまでの川です。狭く曲がりくねった川で洪水になれば大きな被害を出し、天保7（1836）年に龍仙寺を埋没させました。榎川は榎木川、埃之川、江之川とも書いていました。御衣尾川、山田川の合流点から府中大川との合流点までの川です。名前は川の沿岸に榎木が多かったからといわれています。八幡

川は江戸時代には砂崎川と呼ばれていました。甲越峠の麓から瀬戸ハイム・府中中学校南側・府中郵便局前・消防署南側へと流れ榎川、府中大川に合流します。

府中の川には2つの特徴があります。まず川底が周囲の土地より高い天井川があります。もう一つは護岸の石垣が整備されています。大正15（1926）年の大洪水の復旧の際に堅固な堤防にするため川底から6尺（約1.8m）の石垣を積んだものです。



「山田川(中央)と御衣尾川(左)の合流地点、右側の橋は山田橋、右側下流が榎川」

府中町文化財保護審議会委員

菅 信博

魅力発信!

まち記者レポート

境目 晶太さん
光岡 愛さん

大学生が府中町の魅力発信を体験実践

広島修道大学の実習で府中町政策企画課の業務を体験しました。まず府中町のことを知るため、水分峽森林公園や歴史民俗資料館を見学しました。府中町の歴史・文化・自然に触れ、安芸の国府が置かれていたとされることを学びました。そして、広報ふちゅうの表紙撮影や「来て見て乗ってみん祭」の出展などに携わり、府中町のことを多くの人に知ってもらうために様々な活動をしていることを実感しました（境目）。

大学の实習で訪れた府中町。最初は「ショッピングモールがある町」という印象でしたが、3日間の実習を通してその見方は大きく変わりました。町内を巡ったり、この広報ふちゅう10月号の表紙を撮影しに行くなど様々な体験をしました。中でも印象に残っているのはマツダスタジアムでのイベント「来て見て乗ってみん祭」に運営側として参加したこと。子どもたちが射的やガチャガチャなどの遊びを楽しみながら府中町のことを知り、笑顔になる瞬間に立ち会えて胸があたたかくなりました。「町を好きになるきっかけって、小さな体験から生まれるんだ」と実感しました（光岡）。



府中町公式Instagramアカウント

まちの魅力を発信しています。

「わが家のアイドル」では、お子さん・お孫さんのお写真・動画も募集中！



◀Instagram
はこちら

応募は
こちら▶

